

原発から自然エネへ

「エネルギー大転換」の実現を

原発ゼロの未来へ 3・4全国集会での

共産党・志位委員長あいさつ(大要)

3月4日に開かれた「原発ゼロの未来へ 3・4全国集会」での日本共産党の志位和夫委員長の連帯あいさつの大要を紹介します。(見出し、要約は編集部)



野党共同法案まとめたい

この間、原発ゼロの未来を開く希望ある動きが起っています。小泉純一郎、細川護熙両元総理が顧問を務める「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」(原自連)のみなさんが「原発ゼロ基本法案」を提案しました。全面的に賛成です。この「基本法案」の「肝」となっている「運転している原発は直ちに停止する」「原発の再稼働は一切認めない」という考え方が生きる方向で、野党共同の法案をまとめるため話し合っていきたいと考えています。

原発ゼロこそ現実的

原発にしがみつ়勢力は「原発ゼロは非現実的」だと言っていますが、非現実的なのはどちらか。第一に、どんな世論調査でも、原発の再稼働反対は過半数です。原発事故を目のあたりにして、「もう原発は動かしてはならない」—そのことが国民みんなの気持ちになっています。

原発こそ究極の高コスト。「核のゴミ」でも行き詰まり

第二に究極の高コストが原発です。日立が英国で建設する原発へのメガバンクの融資に政府が100%保証することが大問題になってますが、これは原発が民間だ

けでは採算がとれない事業だと自認するものです。世界銀行総裁も「原発への投資は行わない」と明言しました。原発はもはやビジネスとして成り立ちません。

第三に核のゴミ問題は完全に行き詰まり、破たんしてしまっています。原発を再稼働すれば、計算上、わずか6年で原発の使用済み核燃料貯蔵プールが満杯になります。使用済み核燃料を再利用する核燃料サイクルは、完全に行き詰まっています。

原発ゼロを決断してこそ、自然エネの普及がすすむ

「原発ゼロ」の決断をしてこそ、自然エネルギーの飛躍的普及が進みます。ドイツは2022年までに全ての原発を廃炉にすると決め、すでに電源の36%が自然エネルギーです。飛躍的に伸び、電力の輸出が大幅に伸びています。みなさん、ここにこそ未来がある。大事故を体験したこの日本でこそ、原発から自然エネルギーへの「エネルギー大転換」を実現しようではありませんか。

パレードに参加する
吉良よし子参院議員→



再稼働反対。「原発ゼロ」の日本を!!

「原発ゼロの未来へ 福島とともに」の集会とパレードに私も参加しました。「福島切り捨て許さない」と福島のみなさんと声をあげ、「原発ゼロこそ現実的」と原発ゼロ基本法案を発表した原自連の吉原毅氏の言葉に勇気をもらい、「原発ゼロ」へ力を合わせる決意です。



参議院議員(東京選挙区選出)

きらよしこ

吉良よし子

日本共産党



ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2018年3月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可